

地域林業の活性化に向けた取組

留萌北部森林管理署

【はじめに】

留萌北部森林管理署は、北海道北部の西海岸域に位置し、留萌北部流域3町1村（羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町で約170千ha）に広がる面積約96千haの国有林を管轄しています。

流域内の約8割が森林に覆われ、このうち国有林は約7割を占めており、地域の重要な水資源のかん養、山地災害の防止、自然環境の保全など森林の持つ公益的機能を発揮し、生活環境の保全・形成に重要な役割を果たしています。

流域内では、北見山地の天塩岳を源とする北海道第2位の大川「天塩川」が北流し、天塩町において西流して日本海へと注ぎ込み、その他多くの中小河川が天塩山地の西側を流れ下り日本海へと注ぎ込んでいます。

管内の国有林には、海岸部では多くの防風保安林があり、風害等による被害を防備する役割を果たしています。

【低コストで効率的な施業の推進】

平成23年に当署、留萌振興局、初山別村、遠別初山別森林組合の4者で森林整備協定を締結し、初山別森林共同施業団地内において、連携して間伐などの森林整備を行うことができないか、毎年運営会議を開催し、検討を重ねています。

令和5年度については、路網整備や間伐の実行箇所など連携して取り組む新たな候補地を見出すことができませんでしたが、協定に基づいた森



林教室を初山別村交流センターにおいて開催し、



初山別小学校
1～6年の
12名の児童
を対象に樹木
及び動物のク
イズを行っ
たり、実際に木

材に触れたりすることを通じて森林に対する知識と関心を持っていただきました。

また、留萌北部署管内の4町村の林務担当者及び留萌振興局森林室の職員などに集まっていたき、低コスト造林に係る低密度植栽や下刈省力化について現地勉強会を開催し、当署の取組事例を紹介したことで、それぞれのメリットについて理解を深めていただいたところです。



【今後に向けて】

留萌振興局森林室、町村林務担当者、森林組合関係機関等が参集した運営会議を開催し、地域林業の推進に向けた取組の一環として、森林教室を合同で実施するほか、新しい林業の推進に向けた低密度植栽、下刈作業の省力化・軽労化をテーマとした現地勉強会の開催など、連携した取組や情報交換を今後も引き続き展開していくこととしています。